

大学院入試経験談

2017 院進Dクラス 郑珊

簡単な自己紹介をさせていただきます。中国の大連芸術大学を卒業し、国立東京学芸大学大学院に合格し、専攻が美術教育です。

進学道のりはつらいものですが、楽しいことが多くあった気がします。私の進学経験を簡単に表現すれば、目標の設定と根気よく頑張ったことです。私が経験した面接で言うと、以下の質問が良くありました。「なぜ日本へきましたか。」「なぜ我が校を選びましたか。」と「合格した後にどのような計画を立てましたか」などです。そのため、明確な目標があって、その目標に向けて努力を重ねれば、最終的に成功を収めることができると私は思います。来日前、私は日本の各大学の美術専門について自分なりに調べ、比較をしてみた結果、国立東京学芸大学を志望校にしました。私は、日本の美術専門の大学にしなかった理由は、子供の頃から教師になりたいという夢を持っていたことから、中国国内の大学で6年間をかけて美術を専攻してきた経験を活かしたいからです。国立東京学芸大学では、教員になれるチャンスがあり、美術を専攻することも可能です。その上で、同大学は国立大学でもあります。以上の理由から、国立東京学芸大学合格を目標にすることを決めました。入試の前、私は大学に4回足を運びました。1回目は大学で開かれた展覧会の見学で、残る3回は教授との面談です。美術専門の学生として、良い作品で指導教授に良い印象を与えることが大事です。4回目に行ったとき、私は3冊のノートを持っていきました。それらのノートは私のメモですべて埋まっています。自分の努力を教授に認めていただき、国立東京学芸大学に入りたいという私の切実な願いに応じてくださるよう、教授は彼のノートに私の名前を書き留めました。それを見た瞬間、私の緊張が少し和らげたように感じました。

進学道のりを振り返れば、亜細亜友之会外語学院の先生方のご指導に感謝しなければならないと思います。とりわけ大澤先生による細かいご指導が印象に残っています。大澤先生はとても責任感が強く、いつも丁寧にアドバイスをしてくださいました。面接の注意事項やマナー、それから文章の句読点の添削まで丁寧にやってくださいました。大学院の入試に合格するまでという長い道のりに、亜細亜友之会外語学院の先生方のサポートが本当に心強いです。

以上が私の入試経験談です。皆さんが理想の大学に受かるように祈ります。